ワークシート 「深める・広める」㉗

年　組　番号(　　)　名前

書店巡り「御書印」人気拡大

全国550店参加 手製のぬくもり魅力

神社仏閣の「御朱印」のように、書店を巡り集める「御書印」の人気が広がっている。書店員から来店の証しとして店オリジナルのスタンプがもらえるこの企画。県内では6店舗（7月現在）で行っており、実店舗ならではの取り組みに、書店員らも「利用客との対話につながる」と好感触を示す。

台紙となる「御書印帖」は店頭で無料配布しており、これを持参すると書店員が押印し、本の一節といったメッセージを添えてくれる。御書代は300円程度で、御書印帖の代わりにお気に入りのノートを使ってもいい。県内の御書印も地元の風景やゆかりの文学作品をモチーフにした「巡了」を達成した人を「巡了者」、10回巡了した人を「マイスター」として認定している。

「御書印プロジェクト」と銘打ったこの企画は、書店と出版社の有志により2020年3月に始まった。全国で当初46店舗だった参加数は、今年7月現在で約550店舗に増加。熱心なファンも現れ、プロジェクト事務局は50店舗以上巡ることの証しになる」と語った。

御書印一つ一つに書店の物語がある。御書印帖を手に、書店員との会話を楽しんでみては。（高野裕樹）

プロジェクトの詳細は公式サイト＝QRコード、インスタグラムなどで。

「松明あかし」をあしらった郡山書店須賀川西店の御書印。店長の佐藤さんは「御書印は店があったことの証しになる」と話す＝須賀川市

閉店で見納め「存在の証し」

プロジェクトは拡大傾向にあるものの、出版不況を背景に閉店する店も。県内では須賀川市の郡山書店須賀川西店が10月12日で閉店するため、地元の伝統行事「松明あかし」をあしらった御書印も見納めとなる。店長の佐藤大介さん(50)は「御書印が地域の魅力を伝えるきっかけになった」と振り返る。

プロジェクトへの参加を通じ「全国の書店とのつながりや、支えてくれるお客さんがいることを実感できうれしかった」と佐藤さん。「閉店は残念だが、店が御書印という形で誰かの手元に残っていると思うと救われる」と話す。

同店は店舗移転を経つつ約40年にわたり須賀川で営業を続けてきた。今後は既存の外商や児童発達支援、放課後等デイサービス事業に業態を移す。佐藤さんは「全てがなくなるわけじゃない。御書印は店があったことの証しになる」と語った。

▲ 9月23日 福島民友新聞掲載

プロジェクト参加店で配布している「御書印帖」

【県内の「御書印プロジェクト」参加店舗（7月7日現在）】

西沢書店大町店（福島市）TSUTAYA桑野店（郡山市）ジュンク堂書店郡山店（同）ヤマニ書房ラトブ店（いわき市）郡山書店須賀川西店（須賀川市）宮脇書店喜多方店（喜多方市）

県内各店 風景や伝統、文学作品も

ジュンク堂書店郡山店。詩人・彫刻家高村光太郎の詩集「智恵子抄」から着想を得て、安達太良山と阿武隈川をモチーフにした。洗練されたデザインが魅力

西沢書店大町店。店のコンセプトを表すロゴやメッセージに加え、季節に合わせたイラストなども添えてくれる

ヤマニ書房ラトブ店。店のブックカバーのデザインを採用した。モダンでおしゃれ

TSUTAYA桑野店。いわき市出身の詩人草野心平の作品から「両眼微笑」と力強い筆文字を記した。その時々でカエルなどのイラストも添えてくれる

宮脇書店喜多方店。地元会津の縁起物「起き上がり小法師（こぼし）」をあしらった。赤べこのスタンプも押してもらえる

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

デジタルではない紙の本、そしてまちの本屋さんの魅力が広く伝わってほしいものです。皆さんならどんなメッセージを御書印に載せますか。